

郁伽長者所問經の梵文佚文

— *Sūtrāṃkārāparicaya* 「帰依品」より —

大乘經典研究会

研究会班員	加納和雄（駒沢大学准教授）	李学竹（中国蔵学研究中心研究員）
	葉少勇（北京大学講師）	壬生泰紀（龍谷大学非常勤講師）
	道元大成（龍谷大学非常勤講師）	北山祐誓（龍谷大学研究生）
	安川真由（龍谷大学大学院博士課程）	

はじめに

11–12 世紀に、カシュミールの優婆塞マハージャナによって著作されたとみられる『大乘莊嚴經論』の注釈書 *Sūtrāṃkārāparicaya* は、梵文断片としてのみ現存が確認され、その中にはしばしば大乘經典からのまとまった分量の引用が確認される¹。そしてそれらの引用の中には、従来、梵本が確認されていない貴重な大乘經典からの佚文が存在する。本稿では、同書の「帰依品」において確認される『郁伽長者所問經』の梵文佚文を回収し、校訂テキスト、漢蔵諸本との対照、訳注研究を試みる。同經は、大乘仏教の形成を知る上でも貴重な仏典であり、梵文原典は未発見である。このたび確認された梵文佚文によってその原典の一端を明かしたい²。

Sūtrāṃkārāparicaya の該当箇所について

現在までに存在が確認された *Sūtrāṃkārāparicaya* の断片は、貝葉にして都合12枚ほどである。詳細は Ye, Li, Kano 2013 を参照されたい。「帰依品」に関しては、第1–8偈までの注釈部分は未発見であるが、第9–12偈までの注釈部分が確認されている。後者については、加納・葉・李2020 において紹介したのでここでは詳細は割愛し、そこに提示した偈頌と注釈箇所の対応表を下記に再掲しておく。

¹ マハージャナとその著作については、加納（近刊）を参照。

² なお「帰依品」の第8偈の注釈箇所（fol. 6r1–6）の1–5行目には『如来秘密經』梵本第4章の一節（T. 11, no. 312: 721a12–c12）が引用される。別稿を期す。

Sūtrālaṃkāraparicaya 「帰依品」

第1–8偈	(貝葉未発見)		
第8偈 (注釈途中から)	6r1–6		
第9偈	6r6–9		
第10偈	6r9–10		
第11偈(1)	6r11–v6	(『郁伽長者所問經』佚文)	本稿での略号 = A
第11偈(2)	7r1–v8	(『郁伽長者所問經』佚文)	本稿での略号 = B
第12偈	7v8–9		

奇妙なことに本書において第11偈は2回にわたって注釈されている。上記に「第11偈(1)」「第11偈(2)」と記したのはそのことを示す。しかもその内容は部分的に重複しており、1回目の不完全な注釈を途中まで書いた後にそれを取り消して、その後に改めて2回目の注釈がやり直されていると理解できる³。論書の著作過程が窺われる貴重な例といえる。そして『郁伽長者所問經』の佚文は、まさにこの箇所を確認される。本稿では、1回目の注釈箇所(6r11–v6)をAと呼び、2回目の注釈箇所(7r1–v8)をBと呼ぶことにする。両者では類似する文言が繰り返されるが、1回目の注釈箇所では不完全な佚文も、2回目の注釈箇所では完全な佚文として提示される。本稿で提示する『郁伽長者所問經』の梵文佚文は、AとBの二つの箇所の梵文を校合して提示するものである。

『郁伽長者所問經』のテキスト

『郁伽長者所問經』のテキストは、望月良晃氏やジャン・ナティエ氏などによって整理され発表されている(望月 1988: 221–310、Nattier 2003: 16–21)。ここではそれらの先行研究を参照し、本經の諸本を概観し、新出の梵文佚文の価値について述べたい。

郁伽長者を主人公とする經典は阿含・ニカーヤにも存在し⁴、『郁伽長者所問經』との類似点も認められるが、本經の異本とまでは言えない。本稿で扱う『郁伽長者所問經』は、望月氏が指摘するように、阿含・ニカーヤ所収の郁伽長者の教説を原型とし、大乘經典として発展したものである(望月 1988: 223, cf. 大野 1954: 212, 381)。『郁伽長者所問經』の完本には以下のものがある。

漢訳テキスト

1. 安玄・嚴仏調共訳『法鏡經』(T. 12, no. 322)、訳経時期: 168–189 年
2. 竺法護訳『郁伽迦羅越問菩薩行經』(T. 12, no. 323)、訳経時期: 3 世紀後半–4 世紀前半

³ その詳細は加納・葉・李 2020: 205 を参照。

⁴ 「郁伽長者經」『中阿含經』(T. 1, no. 26[38–39])、*Ugga, Aṅguttara-nikāya*, 8.21–22 (PTS, AN, IV, 208–216)。

3. 曇摩蜜多（伝康僧鎧）訳「郁伽長者会」『大宝積經』（T. 11, no. 310[19]）訳経時期：5世紀前半⁵

蔵訳テキスト

4. Surendrabodhi, Ye shes sde 共訳, 'Phags pa Drag shul can gyis zhus pa zhes bya ba'i theg pa chen po'i mdo (**Ārya-grhapati-ugra-pariprcchā-nāma-mahāyāna-sūtra*), 訳経時期：8世紀後半–9世紀前半

以上の漢訳3本と蔵訳1本が本経の完本として伝存し、梵文の完本は発見されていない。現代語訳については、漢訳「郁伽長者会」が『国訳一切経』宝積部5において書き下され（長井・新井 1972: 1–31）、蔵訳は、桜部建氏によって和訳され（桜部 1974: 231–313, 330–335）、ナティエ氏によって英訳されている（Nattier 2003: 200–321）。

また最近、『郁伽長者所問經』の末尾付近の部分について、カローシュティ文字によるガンダーラ語の貝葉写本断簡（3世紀）がスコイエン・コレクションから発見されたとことを松田和信氏からご教示いただいた。本経の成立を考える上で大変貴重な資料となると予想され、その発表が俟たれる。

そして本経は、シャーンティデーヴァ作 *Śikṣāsamuccaya*⁶ や龍樹作『十住毘婆沙論』（鳩摩羅什訳）⁷ といった論書に引用されることが報告されてきた。

Śikṣāsamuccaya から回収される同経の梵文佚文については、諸訳の対照させたものが、望月、ナティエ両氏によって報告されている。

望月氏は、*Śikṣāsamuccaya* を基準として、対応する同経の漢訳3本と蔵訳、さらに *Śikṣāsamuccaya* の蔵訳とを対照させている。各本の刊本の位置情報だけでなく、諸異本の原文や翻訳を対照させており、便利である（望月 1988: 244–310）。

一方、ナティエ氏は、蔵訳『郁伽長者所問經』を英訳する際に自ら作成した科段を基準とし、漢訳3本を対照させ、さらに *Śikṣāsamuccaya* と『十住毘婆沙論』所引の佚文を対照させる（Appendix 1, Part B: Chinese Texts and Citations in Other Sources）。また同氏は、本経の蔵訳の科段を基準として各刊本の位置情報を対照して示すため利便性が高い（Nattier 2003: 333–340）。本稿

⁵ 『大正新脩大藏經』では、『大宝積經』所収「郁伽長者会」は康僧鎧の翻訳と伝えられているが、唐代の智昇（生没年不詳）撰『開元釈教錄』（T. 55, no. 2154）の時点で「經本題為康僧顗者誤也」（585a12–13）と疑義が呈されているように、他の人物の手によるものと考えられる。大野法道氏は、訳語が曹魏ではなく、宋代（劉宋）のものであることから、この時代の『郁伽長者所問經』の翻訳者として名が挙がっている曇摩蜜多（356–442年）によって「郁伽長者会」が翻訳されたと結論付け（大野 1954: 213）、この説が広く支持されている（平川 1968: 488–489, 望月 1988: 232–243）。

⁶ *Śikṣāsamuccaya* には漢訳の法護・日称等訳『大乘集菩薩学論』（T. 32, no. 1636）と蔵訳の Jinamitra, Dānaśīla, Ye shes sde 共訳, *bSlab pa kun las btus pa*（D No. 3940, P No. 5336）の異本がある。

⁷ 桜部氏は、『十住毘婆沙論』の引用が『郁伽長者所問經』全体の六割にも達することから、「これはほとんどもう一つの異訳といってよいほどである」と述べている（桜部 1974: 347）。

ではナティエ氏の科段および対照表に基づいて作業を進めた。

『郁伽長者所問経』の梵文回収状況

本稿で扱う『郁伽長者所問経』の梵文佚文は、*Sūtrālaṃkāraparicaya* から回収したものである。佚文は、本経の冒頭部付近と対応し、ナティエ氏の科段では§§2D、3A-D、4A、6B に相当する。これらは、*Śikṣāsamuccaya* 所引の佚文とは重複しない、梵文未回収の箇所である。以下には、梵文佚文の回収状況を概観するため、対照表を提示する。対照表は、上述したナティエ氏の表 (Appendix 1, Part B) を一部転用した。同氏による科段 (§) を左側のコラムに示し、中央のコラムには *Sūtrālaṃkāraparicaya* における引用箇所、その右側のコラムには *Śikṣāsamuccaya* (Bendall 1897-1902) における引用箇所をそれぞれ示し、対照させた。梵文未回収のセクションは傍線記号 (—) で示した。

(『郁伽長者所問経』の梵文佚文の回収状況)

Nattier 2003: 333ff. (§)	<i>Sūtrālaṃkāraparicaya</i>	<i>Śikṣāsamuccaya</i>
0	—	—
1A-2C	—	—
2D	B 7v3-4 (一部回収)	—
2E	—	—
3A	A 6v2, B 7r2-3	—
3B	A 6v2, B 7r3-4	—
3C	A 6v2-3, B 7r4-5	—
3D	A 6v3-4, B 7r5-7	—
4A	B 7r8 (末尾のみ未回収)	—
4B-E	—	—
5A	—	267.12-13, 144.5-6
5B	—	180.14
5C	—	145.10
5D-6A	—	—
6B	B 7v4-5 (一部回収)	—
7A	—	78.7-13, 120.3-5, 271.9-11
7B-9F	—	—
10A	—	19.1-3
10B	—	19.3-7
11A-F	—	—

郁伽長者所問經の梵文佚文

297

11G	—	147.20
12A	—	180.1–6
12B–13A	—	—
13B	—	78.14–16
13C–L	—	—
13M	—	78.17
13N–W'	—	—
13X	—	78.17–18
13Y–HH	—	—
14A	—	19.8–14
14B	—	—
14C	—	19.14–17
14D	—	—
14E	—	19.17–19
15A	—	19.19–20.3
15B	—	20.3–9
16A	—	—
16B	—	315.14–15
17A–23E	—	—
24A	—	136.1–7
24B	—	131.10–12
24C–D	—	—
24E	—	200.7–11
25A	—	198.1–6
25B–D	—	—
25E	—	196.7–8
25F	—	198.6–19
25G	—	—
25H	—	198.19–199.2
25I	—	199.2–3
25J	—	199.3–12
25K–L	—	—
25M	—	199.12–15

26A	—	199.15–200.4
26B	—	200.4–6
26C	—	37.7–12
26D–35	—	—

以下、今回扱う『郁伽長者所問經』の梵文佚文の内容のあらましと、佚文の対応箇所について述べておく。

§2 は在家菩薩について説く。そのうちの§2D は在家菩薩と出家菩薩のあり方について問う。梵文佚文は§2D の冒頭部に相当する。

§3 は在家菩薩の三宝帰依を扱う。その内容は、総説 (§3A)、仏帰依 (§3B)、法帰依 (§3C)、僧帰依 (§3D) からなる。この§3 については全体の梵文佚文が回収できた。

§4 は、三帰依にあたって在家菩薩がそなえるべき事柄を説く。そして§4A は法帰依にあたってそなえるべき 4 項目を説く。§4A のほぼ全文の梵文を回収した。

§6 は善士の行いについて説く。そして§6B は、堅固ならざる身体・生命・財物でもって、いかにして堅固なものとなり得るのかを示し、その末尾では善士の行いをまとめて述べる。この§6B のまとめの部分の一節について梵文佚文を回収した。

凡例

以下は、*Sūtrālamkāraparicaya* に引用される『郁伽長者所問經』の梵文佚文の校訂テキストとその和訳である。梵文校訂テキストは、梵文写本（序文を参照）に基づいて校訂したものである。略号 A は梵文写本の 6r11-v6、B は梵文写本の 7r1-v8 に対応する。A と B に引用される『郁伽長者所問經』の経文は多くが重複しており、B において A の文言はほぼすべて包含されている。それらの梵文は、ナティエ氏による同經の分節にもとづいて配列しなおして提示し、各々にナティエ氏によるセクション番号を付した。

そして各佚文に対応する蔵訳（D No. 63, 285b5, 259a2-260a6, 261b2-3, P No. 760[19], 298a8, 298b6-299b6, 301b8-302a1）及び漢訳 3 本（T. 11, no. 322, T. 11, no. 323, T. 12, no. 310[19]）を見開きの形で提示した。蔵訳は、デルゲ版を底本として北京版との校合を行い、各々ロケーションを提示した。漢訳は、『大正新脩大藏經』の活字本をそのまま転写した。ただし、蔵訳および漢訳の異読の掲載に際して、本稿訳者が不要と判断した異読は適宜割愛した。

梵文テキストは写本の綴り字を標準化して提示した。そのため、分節記号の添削、連声の標準化、アヴァグラハ等の異読は逐一報告しない。また、蔵訳テキストにおいても、分節記号の添削、'ang と yang の異読、pa と ba の異読等は逐一報告しない。

和訳において、角括弧〔 〕は、文脈上、訳者が補った文言を示し、丸括弧（ ）は、訳者の解説文を示す。

左頁上段には梵文テキスト《Skt.》、左頁下段には蔵訳テキスト《Tib.》、右頁上段には《梵文和訳》、右頁中段～下段には漢訳 3 本《法鏡經》、《郁迦羅越菩薩行經》、《郁伽長者會》をそれぞれ配置した。また『十住毘婆沙論』に対応する引用がある場合は、参考のために、右頁下段に掲載した。

なお、以下の諸本対照の中には、掲載した漢訳や蔵訳と部分的にしか対応しない梵文もある (§§2D, 4A)。その場合、梵文と対応しない諸訳の部分については丸括弧（ ）で括った。

《Skt.》 Ms; A —, B 7v3–4, cf. 2D:

kathaṃ gr̥hiṇo bodhisattvā gr̥habhūmau sthitās tathāgatānām ājñāvacanapratika_[B7v4]tā bhavanṭī ||

《Tib.》 D 258b5, P 298a8:

_[D258b5] byang chub sems dpa' khyim pa khyim gyi sa la gnas nas | ji ltar de bzhin gshegs pa mams kyi bka'
bzhin bgyid cing | (byang chub kyi phyogs kyi chos mams las mi nyams |)

《梵文和訳》:

どのようにして、在家菩薩たちは、在家の分位に留まりながら、如来たちの教誡のことばに忠実な者たちⁱとなるのですか。

《法鏡經》T. 12, no. 322, 15c7–9:

(何謂要者、衆祐。) 開士居家、而承用如来教誨者、(以不虧、亦不損。其本所願、所謂無上正眞道也。)

《郁迦羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23b14–15:

諦行如来教、(至不退轉、成無上正眞道。)

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 472c11:

云何在家菩薩。住在家地、如来所勅、隨順修行、(而不損壞、助菩¹提法。)

¹ 提=薩<宮>

ⁱ pratikara という語については、*Mahāvastu* に *vayan te ājñāmātravacanapratikarā bhaviṣyāmaḥ* (Mv(S): 490) といった用例がある。Jones 訳 “we are ready to do your bidding” (Jones 1952: 435)、平岡訳「我々はあなた様が命令されたら、直ちに仰せに従います」(平岡 2010 :157)。なお、*Mahāvastu* の Marciniak による校訂本は当該箇所を、*vayaṃ te ājñāmātravacanapratikarā bhaviṣyāmo* (Mv(M): 566) と校訂している(ājñāmātrā-は ājñāmātrād または ājñāmātram 「命令があった直後に」という意味で理解すべきか)。また BHSD 所載の見出し語 *pratikaroti* の項目において挙げられる “works in accordance with what is expected” という意味も、上記の訳を支持する。

《Skt.》 Ms; A 6v2, B 7r2–3, cf. 3A:

iha grhapate grhīṇā¹ bodhisattvenāgāraṃ adhyāvasatā buddhaṃ śaraṇaṃ² gatena bhavitavyaṃ dharmaṃ
śaraṇaṃ³ gatena bhavitavyaṃ saṃghaṃ śaraṇaṃ⁴ gatena bhavitavyaṃ | tac cānena
trīratnaśaraṇagamanakuśala_[B7r3]mūlaṃ anuttarāyāṃ samyaksaṃbodhau pariṇāmayitavyaṃ⁵

¹ grhīṇā] A; grhine B ² śaraṇaṃ] A; śaraṇa- B ³ śaraṇaṃ] em.; śara A; śaraṇa B ⁴ śaraṇaṃ] em.; śaraṇa- A B

⁵ tac cānena ... pariṇāmayitavyaṃ] B; om. A

《Tib.》 D 259a2–3, P 298b6–7:

khyim bdag 'di la byang chub sems dpa' khyim pa khyim na gnas _[D259a3] pas sangs rgyas la skyabs su 'gro
_[P298b7] bar bya'o || chos la skyabs su 'gro bar bya'o || dge 'dun la skyabs su 'gro bar bya'o || de gsum la skyabs
su song ba'i dge ba'i rtsa ba de bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub tu yongs su bsngo bar
bya'o ||

《梵文和訳》:

長者よ、ここにおいて家に住む在家菩薩は、仏に帰依すべきであり、法に帰依すべきであり、僧（教団）に帰依すべきである。そしてこの者は、その三宝帰依の善根を、無上正等覺に向けて回向すべきである。

《法鏡經》T. 12, no. 322, 15c18–21:

於是、理家。開土居家爲道者、當以自歸於佛、自歸於法、自歸於衆。彼以自歸之德本、變爲無上正眞道。

《郁迦羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23b23–24:

長者。若有菩薩居家修道、當歸命佛、歸命法、歸命僧。以自歸之德、求於無上正眞之道。

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 472c20–21:

長者。在家菩薩、應歸依佛、歸依法、歸依僧。以此三寶功德、迴向無上正眞之道。

Cf. 十住毘婆沙論 T. 26, no. 1521, 54c8–11:

發心菩薩先應歸依佛、歸依法、歸依僧。從三¹歸所²得功德、皆應迴向阿耨多羅三藐三菩提。

¹ 三＝二＜宮＞ ² 所＝依＜明＞

《Skt.》 Ms; A 6v2, B 7r3–4, cf. 3B:

kathaṃ ca gr̥hapate gr̥hī bodhisattvo buddhaṃ śaraṇaṃ¹ gato bhavati |
 iha gr̥hapate gr̥hī bodhisattvo buddhakāyaṃ niṣpādayiṣyāmi² dvātriṃśatā³ mahāpuruṣalakṣaṇais
 samalaṃkṛtaṃ iti cittam abhiśaṃskaroti | yaiś ca kuśalamūlair dvātriṃśan mahāpuruṣalakṣaṇāni
 samudānīyante, teṣāṃ⁴ kuśalamūlānāṃ samudānayanāya vīryam ārabhate | evaṃ ca gr̥hapate gr̥hī
 bodhisattvo buddhaṃ śa_[B7r4]raṇaṃ gato⁵ bhavati ||⁶

¹ śaraṇaṃ] em.; śraṇa- A B ² niṣpādayāmi] B; niṣpādayāmi A ³ dvātriṃśatā] A; dvātriśatā B

⁴ teṣāṃ] em.; teṣāṃ ca B; om. A ⁵ śaraṇaṃ gato] em.; om. A; śaraṇagato B ⁶ yaiś ca ... bhavati] B; om. A

《Tib.》 D 259a3–5, P 298b8–299a2:

_[P298b8] khyim bdag ji ltar na bhang chub sems dpa' khim pa sangs rgyas la _[D259a4] skyabs su song pa yin zhen
 | khyim bdag 'di la byang chub sems dpa' khyim pa sangs rgyas kyi sku skyes bu chen po'i mtshan sum cu
 rtsa gnyis kyis _[P299a1] legs par brgyan pa yongs su bsgrub par bya'o l snyam du sems mngon par 'du byed de
 | dge ba'i rtsa ba gang dag gis skyes bu chen po'i mtshan sum cu rtsa gnyis _[D259a5] yang dag par 'grub par
_[P299a2] 'gyur ba'i dge ba'i rtsa ba de dag yang dag par bsgrub pa'i pyhir | brtson 'grus rtsom pa de lta bu ni
 khyim bdag byang chub sems dpa' sangs rgyas la skyabs su song pa yin no ||

《梵文和訳》では長者よ、どのようにして在家菩薩は仏に帰依した者となるのか。

家長よ、ここにおいて在家菩薩は、「私は、三十二大人相によって見事に莊嚴された仏身を完成させましょう」と、心を決める。そして、ある諸善根によって三十二大人相を完全具足させるところの、その諸善根を完全具足させるために、精進に着手するのである。そして長者よ、このようにして在家菩薩は仏に帰依した者となるのである。

《法鏡經》T. 12, no. 322, 15c21–16a1:

理家。自歸於佛法衆者、云何我當以成就佛身、三十二大士之相、以自嚴飾。亦以其諸德本、而致三十二大士之相。以致彼諸德本、便而精進行之。開士居家者、自歸於佛、爲如是也。

《郁迦羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23b26–29:

長者居家菩薩、云何歸命佛。我當具足佛三十二大人之相。諸所作爲善本功德。積無央數、願常行精進、爲三十二大人之相。如是名爲歸命於佛。

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 472c21–25:

長者。云何在家菩薩歸依於佛。我要得成於佛身三十二相、以自莊嚴。持此善根集三十二丈夫相、爲集此故勤行精進。長者。是名在家菩薩歸依於佛。

《Skt.》 Ms; A 6v2–3, B 7r4–5, cf. 3C:

kathaṃ ca gr̥hapate gr̥hī bodhisattvo dharmaṃ śaraṇagato bhavati | iha gr̥hapate gr̥hī bodhisattvo dharṃe
sagauravo bhavati sapratīśo dharmārthiko dharmakāmo dharmārāmaratirato dharmanimno dharmapravaṇo
[B7r5] dharmaprāgbhāro dharmarakṣo dharmaguptisthito dharmādhipateyo dharmayaśā dharmacaryāsthito
dharmaparyeṣī dharmabalo dharmadānapraharaṇo dharmakṛtyakārī |
sa evaṃ¹ dharmasamanvāgatasmṛtīm pratilabhate²—aham apy anuttarāṃ samyaksambodhim
abhisambudhya sade^[A6v3]vamānuṣāsurasya lokasya dharmeṇa dharmasaṃvibhāgaṃ kariṣyāmīti |
evaṃ gr̥hapate gr̥hī³ bodhisattvo dharmaṃ śaraṇagato bhavati ||

¹ evaṃ] em. (= Tib.); eva B; om. A

² kathaṃ ca gr̥hapate ... pratilabhate] B; om. A

³ gr̥hapate gr̥hī] B (= Tib.); gr̥hī A

《Tib.》 D 259b7–260a1, P 299a5–7:

khyim bdag | ji ltar na byang chub sems dpa' khyim pa chos la skyabs su song ba yin zhe na | khyim bdag |
'di la byang chub sems dpa' khyim pa chos la gus pa dang bcas shing ri mor byed pa dang bcas pa | chos
don du gnyer ba | chos 'dod pa | chos kyi kun dga' la dga' zhing mos pa | chos la gzhol ba | chos la 'bab pa |
chos bsrung ba | chos sped cing gnas pa, chos kyi grags pa dang | chos kyi spyod pa la gnas pa | chos kyi
dbang du gyur pa | chos yongs su tshol ba | chos yongs su dag pa | chos kyi stobs dang ldan pa | chos kyi
sbyin pa'i mtshon cha dang ldan pa | chos kyi bya ba byed pa de |
'di lta bu'i chos dang ldan pas bdag bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub mngon [P299a6] par
rdzogs par sangs rgyas nas | lha [D260a1] dang mi dang lha ma yin du bcas pa'i 'jig rten la chos kyis chos kyi¹
bgo bsha' bya'o snyam du dran pa rab tu 'thob ste² | khyim bdag | de ltar na byang chub sems dpa' khyim pa
chos [P299a7] la skyabs su song ba yin no ||

¹ chos kyis chos kyi D; chos kyis chos kyis P

² 'thob ste D; thob te P.

《梵文和訳》：

また長者よ、どのようにして在家菩薩は法に帰依した者となるのですか。長者よ、ここにおいて在家菩薩は、法に敬意を抱く者となり、尊敬を持つ者となり、法を求め、法を欲し、法の喜びを喜び、法に傾き、法に傾斜し (dharmapravāṇa)、法に傾倒し (dharmaprāgbhāra)、法を守り、法の守護を続け、法に従事し (dharmādhipateya)、法を名声として有し (dharmayaśas)、法の実践を続け、法を追求し、法の力を有し、法施という武器を持ち (dharmadānapraharāṇa)、法に関する義務を遂行する。

彼は、次のように (evam)、法を完全に具足した、という想い (念) を得るのである。つまり「私もまた無上正等覺を現等覺してから、人天阿修羅を含む世界に、法による法施をなしましょう」とⁱⁱ。長者よ、このようにして、在家菩薩は法に帰依した者となるのである。

《法鏡經》T. 12, no. 322, 16a1–5:

自歸於法者云何。謂爲恭敬法、求法欲法、樂法之樂、法隆法依、法護法慎、如法住、隨法術¹、爲法典、爲法力、爲求法財、爲法靜治、爲造法事。我亦當²天上³世間分布是法、開土居家者、自歸於法爲如是也。

¹ 術=行<三><宮> ² 當+ (於) <三><宮> ³ 上=下<宮>

《郁伽羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23b29–c5:

云何爲歸命法。奉事法教、敬受於法、解法妙義、好法樂法、歸法志法、導御法、護持法。住於寂法、鼓法僧住法行、在所行法、爲法務說法界、法¹力爲法住²、行法施求法寶。我得無上正眞之道最正覺時、當爲諸天世間人民開度說法、是爲歸命法。

¹ (爲) +法<三><宮> ² 住=主<三><宮>

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 472c25–473a2:

長者。云何在家菩薩歸依於法、長者。而是菩薩恭敬於法及說法者、爲法欲法、樂法極樂、助法住法、持法護法、堅住於法、讚歎於法、住於法行、增法求法、以法爲力、施法器仗、唯法爲務。我成阿耨多羅三藐三菩提已、當以正法等施一切人天阿修羅。長者、是名在家菩薩歸依於法。

ⁱⁱ 「法による (dharmena) 法施」は表現として不自然さが残る。別の解釈としては「…世界の法と法の共有をなしましょう」と訳することも可能か。

《Skt.》 Ms; A 6v3–4, B 7r5–7, cf. 3D:

kathaṃ ca gr̥hapate gr̥hī bodhisattvas saṅghaṃ śaraṇagato bha_[B7r6]vati¹ | iha gr̥hapate gr̥hī bodhisattvas saṅghaṃ śaraṇagatas sacet paśyati srotāpannaṃ vā sakṛdāgāminaṃ vānāgāminaṃ vārhantaṃ vā prthagjanaṃ vā śrāvakayānīyaṃ vā pratyekabuddhayānīyaṃ vā, sa tatra sagauravo bhavati sapratīśaḥ pratyutthānagurukas suvacāḥ pradakṣiṇagrāhī |

sa tān samyakpraipannān upatiṣṭhann evaṃ smṛtim pratilabhate——aham apy anutta_[A6v4]rāṃ samyaksaṃbodhim² abhisambudhya śrāvakaguṇapariniṣpattaye dharmaṃ deśayīṣyāmīti | te_[B7r7]ṣu sagauravo bhavati sapratīśaḥ, na ca tebhya spr̥hayati | evaṃ gr̥hapate gr̥hī bodhisattvas saṅghaṃ śaraṇagato bhavati |

¹ kathaṃ ca gr̥hapate ... bhavati] B; om. A

² anuttarāṃ samyaksaṃbodhim] A; anuttarasamyaksaṃbodhim B

《Tib.》 D 260a1–5, P 299a7–b4:

khyim bdag ji ltar na byang chub sems dpa' khyim pa dge 'dun la skyabs su _[D260a2] song ba yin zhe na | khyim bdag 'di la byang chub sems dpa' khyim pa dge 'dun la skyabs su song ba ni | _[P299a8] gal te dge slong rgyun du zhugs pa'am | lan cig phyir 'ong ba'am | phyir mi 'ong ba'am | dgra bcom pa'am | so so'i skye bo'am | nyan thos kyi theg pa pa'am | rang sangs rgyas kyi theg pa pa'am | _[D260a3] theg pa chen po _[P299b1] pa dag mthong na | de de la gus pa dang bcas¹ zhes dang bcas shing ldang bar brtson la² | bka' blo bde zhing 'thun par 'dzin pa yin te |

de yang dag par song ba dang | yang dag par zhugs pa de dag³ la bsnyen bkur byas _[P299b2] pas 'di ltar bdag bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub mngon par _[D260a4] rdzogs par sangs rgyas nas kyang | nyan thos kyi yon tan yongs su bsgrub pa dang | rang sangs rgyas kyi yon tan yongs su bsgrub pa'i _[P299b3] phyir chos bstan to snyam du dran pa rab tu 'thob ste | de de dag la gus pa dang bcas shing zhes dang bcas pa yin gyi | de dag la mi dga' bar⁴ ni mi byed de ||

de ltar na khyim bdag byang chub _[D260a5] sems dpa' khyim pa dge 'dun _[P299b4] la skyabs su song ba yin no ||

¹ dang bcas D; bcas P

² brtson la P; brtson pa D

³ de dag D; da dag P

⁴ mi dga' bar D; dga' bar P

《梵文和訳》

また長者よ、どのようにして在家菩薩は僧に帰依した者となるのですか。長者よ、ここにおいて僧に帰依した在家菩薩が、もしも預流、一來、不還、阿羅漢、凡夫、声聞乗の者、もしくは独覺乗の者を見るならば、彼は、その人に対して敬意を抱く者 (sagaurava) となり、尊敬を持つ者となり (sapratīṣa) となり、敬意を起こした者 (pratyutthānaguruka) となり、善き言葉を語る者となり (suvacas) となり、恭敬を持つ者 (pradakṣiṇagrāhin) となる。

彼は、それらの正しく修行し専念する人たちに仕えながら、次のような、想い (念) を得る。「私もまた、無上正等覺を現覺してから、声聞の諸徳性を完成するために、法を説きましょう」と。彼らに対して敬意を抱く者となり、尊敬を持つ者となる。しかし、彼らを嫉妬することはない。長者よ、このようにして、在家菩薩は僧に帰依した者となるのである。

《法鏡經》T 12, no. 322, 16a5–12:

自歸於衆者云何。若開土居家。或見溝港、或見頻來、或見不還、或見應儀、或見凡人求弟子道者、爲恭敬彼、承事供養、師之尊之、以禮待之。若以承事彼正法¹正術者、而以得是志。亦我當得無上正眞道、以講授經、成就弟子之徳。而爲恭敬彼、不亦而羨彼。開土居家者。自歸於衆爲如是也²。

¹ 法=住<三>, 往<宮> ² [也] —<三><宮>.

《郁迦羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23c5–12:

云何歸命於僧。居家菩薩、若見須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、若弟子若凡人、皆當敬侍、瞻待如禮、卑順遜言、不爲狐疑、宗奉供養¹。承²正行之衆、每心念言。我得無上正眞之道最正覺時、當爲諸天人民一切成弟子衆、當爲說法。有恭敬意不爲輕慢。是爲歸命於僧。

¹ 養=事<宮> ² [承] —<三><宮>

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 473a2–9:

長者。云何在家菩薩歸依於僧。長者。若是菩薩、見須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、及與凡夫、若見聲聞乗、皆悉敬順速起承迎、好語善音右遶彼人、應當¹如²是思念。我等得無上正眞道時、爲成聲聞功德利故而演說法。雖生恭敬心不住中。長者。是名在家菩薩歸依於僧。

¹ 當=常<宋> ² 如=知<宮>

《Skt.》 Ms; A —, B 7r8, cf. 4A:

punar aparaṃ gṛhapate caturbhir¹ dharmais samanvāgato bodhisattvo buddhaṃ śaraṇagato bhavati |
katamais̥ caturbhiḥ | bodhicittasyānutsargeṇa samādānasyākhaṇḍanatayā² mahākaruṇāyā
aparityāgenānya-yānasyānadhyaḷambanatayety |

¹ caturbhir] em.; caturbhi B ² -ākhaṇḍanatayā] em.; -ākhaṇḍanayā B

《Tib.》 D 260a5–6, P 299b4–6:

khyim bdag gzhan yang byang chub sems dpa' khyim pa chos bzhi dang ldan na sangs rgyas la skyabs su
song ba yin te | bzhi gang zhe na | byang chub kyi sems mi 'dor ba dang | dam [P299b5] bcas pa mi 'jigs pa dag
| snying rje chen po yongs su mi gtong pa [D260a6] dang | theg pa gzhan la mi dmigs pa ste | (khyim bdag
byang chub sems 'dpa khyim pa chos bzhi po de dag dang ldan na sangs rgyas la skyabs su song pa [P299b5]
yin no ||)

《梵文和訳》

さらに長者よ、四種の法を備えた〔在家の〕菩薩が、仏に帰依した者となるのである。いかなる四つを〔備えるのか〕。(一) 菩提心を捨てないことと、(二) 受けた誓いを破らないことと、(三) 大悲を捨てないことと、(四) 余乗に依拠しないことを〔備えるの〕である。

《法鏡經》T. 12, no. 322, 16a13–16:

又復理家。開士以修治四法、爲自歸於佛。何謂四。一曰道意者、終而不離。二曰¹所受者、終而不犯。三曰大悲哀者、終而不斷。四曰異道者、終而不爲也。

¹ 日=者<宮>

《郁迦羅越菩薩行經》T. 12, no. 323, 23c13–16:

復次長者。居家菩薩、有四事法、行歸命佛。何等爲四。一者志習佛道。二者以等心施意無偏邪。三者不斷大悲。四者心不樂餘乘。(是爲四居家菩薩、爲歸命佛。)

《郁伽長者會》T. 11, no. 310, 473a8–13:

長者。是名在家菩薩、歸依於僧。長者。在家菩薩成就四法歸依於佛。何等四。不捨菩提心。不廢勸發菩提之心。不捨大悲。於餘乘中、終不生心。(長者。是名在家菩薩成就四法歸依於佛。)

Cf. 十住毘婆沙論 T. 26, no. 1521, 54c15–17:

不捨菩提心 不壞所受法
不¹捨大悲心 不貪樂餘乘
(如是則名爲 如實歸依佛)

¹ 捨=離<三><宮>

《Skt.》 Ms; A —, B 7v4–5, cf. 6B:

iti hi gr̥hapate gr̥hī boddhisattva imāny evaṃrūpāṇi satpuruṣakarmāṇi karoti, na kāpuruṣakarmāṇi |
kurvaṃś cānaparāddho bhavati tathāgatā_(7v5)nāṃ yuktavādī ca bhavatīti ||

《Tib.》 D 261b2–3, P 301b8–302a1:

khyim bdag | de ltar na byang chub sems dpa' khyim pa gang 'di lta bu'i skyes bu dam pa'i las 'di dag [D261b3]
byed kyi | skyes bu ngan pa'i las ni ma [P302a1] yin no || de ltar byed na de bzhin gshegs pa mams kyis (read:
kyi, kyis DP) nyes par brjod pa ma yin te | rigs par smra ba yin |

《梵文和訳》：

長者よ、このように、じつに在家菩薩は、以上のような性質の善士の行いをなすが、悪人の行いはなさない。そして、[そのように] なすならば、[彼は] 罪なき者となりⁱⁱⁱ、そして如来たちの道理を語る者となる。

《法鏡經》 T. 12, no. 322, 16c15–17:

是爲開士居家修道者、爲賢夫之行。爲事。如是而無罪也¹。爲如來言說爲法說也。

¹ [也] –<三><宮>

《郁迦羅越菩薩行經》 T. 12, no. 323, 24b9–10:

長者。居家菩薩、以是比像而立家地。是爲上士居家行也。

《郁伽長者會》 T. 11, no. 310, 473c1–3:

長者。是名在家菩薩。如是修集善丈夫行。於諸如來無一切過。名相應語。

ⁱⁱⁱ この部分に関しては、諸訳で完全には一致しない。(如是而無罪也、於諸如來無一切過, de bzhi gshegs pa mams kyis (read: kyi?) nyes par brjod pa ma yin te)

略号及び参考文献一覧

(略号)

A = *Sūtrāṃkārāparicaya*, Skt. Ms. fol. 6r11–v6

B = *Sūtrāṃkārāparicaya*, Skt. Ms. fol. 7r1–v8

BHSD = F. Edgerton, *Buddhist Hybrid Sanskrit Dictionary*. New Haven: Yale University Press, 1953.

Mv(S) = Émile Senart, *Le Mahāvastu, texte sanscrit publié pour la première fois et accompagné d'introductions et d'un commentaire*, vol. 2, Collection d'ouvrages orientaux; Seconde série, Paris: Imprimerie nationale, 1890. Reprint. Tokyo: Meicho-Fukyū-Kai, 1977.

Mv(M) = Katarzyna Marciniak, *The Mahāvastu: A New Edition*. vol. II, Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica, vol. XIV, 2, The International Research Institute for Advanced Buddhology Soka University, 2020.

(和文)

大野法道

1954 『大乘戒經の研究』、山喜房仏書林。

加納和雄・葉少勇・李学竹

2020 「Sūtrāṃkārāparicaya 「帰依品」 — 要文抜粋 —」、能仁正顕編『『大乘莊嚴經論』第2章の和訳と注解 — 大乘への帰依 —』、法蔵館、203–213 頁。

加納和雄

近刊 「サツジャナとマハージャナ — 11 世紀カシュミールの弥勒論書関連文献群 —」、『印度学仏教学研究』69。

桜部建 [訳]

1974 「郁伽長者所問經 (ウグラ居士の問い)」、『大乘仏典』(第9巻 宝積經典部) 所収、中央公論社。

長井眞琴 [訳]・新井慧譽 [校訂]

1972 『国訳一切經』印度撰述部 宝積部 5、大東出版社 (改訂版。初版 1931 年)。

平岡聡

2010 『ブツダの大いなる物語 — 梵文『マハーヴァストゥ』全訳 —』下巻、大蔵出版。

平川彰

1968 『初期大乘仏教の研究』、春秋社。

望月良晃

1988 『大乘涅槃經の研究 — 教団史的考察 —』、春秋社。

(欧文)

Bendall, Cecil, ed.

1897–1902 *Çikshāsamuccaya: A Compendium of Buddhistic Teaching Compiled by Çāntideva, Chiefly from Earlier Mahāyāna-sūtras*. Bibliotheca Buddha, vol. 1, St. Petersburg: Imperial Academy. Reprint. Osnabrück: Biblio Verlag, 1970.

Jones, J. J.

1952 *The Mahāvastu, translated from the Buddhist Sanskrit*. 3 vols., vol. II, London: Luzac & Company, LTD. Reprint. Oxford, The Pali Text Society (Sacred Books of the Buddhists, v. 18), 1983.

Nattier, Jan

2003 *A Few Good Men: The Bodhisattva Path According to the Inquiry of Ugra (Ugraparipṛcchā)*. Studies in the Buddhist Traditions, Honolulu: University of Hawai'i Press.

Ye Shaoyong, Li Xuezhu, Kano Kazuo

2013 Further Folios from the Set of Miscellaneous Texts in Śāradā Palm-leaves from Zha lu Ri phug: A Preliminary Report Based on Photographs Preserved in the CTRC, CEL and ISIAO. *China Tibetology* 20. pp. 30–47. (改訂版は下記に収録: Horst Lasic and Xuezhu Li (eds.), *Sanskrit Manuscript from China II. Proceedings of a panel at the 2012 Beijing Seminar on Tibetan Studies, August 1 to 5*. Beijing 2016, pp. 245–270.)

(梵文の読解に際しては、桂紹隆先生より多くのご教示を賜った。令和2年度科学研究費[17K02222] [17H04517] [18H03569] [18K00074]による研究成果の一部。)

Abstract

Sanskrit excerpts from the *Ugradattaparipṛcchā*
 —Quotations in the *Sūtrālaṃkāraparicaya*, Śaraṇagamanādhikāra—

The present paper aims to provide Sanskrit excerpts from the *Ugradattaparipṛcchā*, whose Sanskrit original is yet to be found. These excerpts are found as quotations in the *Sūtrālaṃkāraparicaya* most probably composed by a lay Kashmiri Buddhist, Mahājana (the 11th and 12th century). Some other Sanskrit passages of the same sūtra have been known as quotations in the *Śikṣāsamuccaya*, but the passages newly found in the *Sūtrālaṃkāraparicaya* do not overlap with them. We offer a critical edition of these Sanskrit passages quoted in the *Sūtrālaṃkāraparicaya* and its annotated Japanese translation, and collate them with their corresponding parts of its Tibetan translation and three Chinese translations.

キーワード *Ugradattaparipṛcchā*, 梵文断片, *Sūtrālaṃkāraparicaya*